

国語科研究委員会

1 研究テーマ

子どもが、自分の思いを自分の言葉で表現し、伝え合う力を高める国語学習はどうあったらよいか

2 研究課題

小山小学校では、「柄の木のように 深く根を張り、幹太く、枝葉豊かな子」の学校の目標の下、具体的な児童の姿として「すすんで働く子ども」「よく考える子ども」「ものをだいにする子ども」の育成を目指している。「話す・聞く」ことの児童の実態から「自分の考えを言語を通して正確に表現すること」や「友達の考えを正確に理解すること」が苦手な子どもが多いことが課題になっていた。一方、教師の指導面では「伝え合う力」をつけるための、意見の引き出し方や関連付けて深めさせる手立てが不十分であったことが反省としてあげられた。そこで、子どもたちが、互いの立場や考えを尊重しながら言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を「伝え合う力」ととらえ、「伝え合う力」を高めるための手立てを工夫しようと研究を進めてきた。そこで、

自分の思いを込めて発表し関連させた意見を発言させるために、自分たちの身近で、多様な考えや意見が出しやすい場面を設定する。

友達の意見を聞いて自分の意見と関連させたり深めたりする姿がなかったので、自分の意見の根拠（理由）をはっきりさせて話し、話し手の意図を考えながら聞く場面を設定する。

相互評価の場を積み重ねる。

以上の手立てにより指導することで、根拠をはっきりさせて自分の考えを語り、話し手の意図を考えながら聞き、協力して話し合うことができるようになって考えた。

3、指導の実際

6月2日の事前授業では、「友達の意見を聞いて自分の考えと関連付け、深めることができにくい」子どもたちが、目標に応じて相手にわかりやすく自分の考えや調べたことについて「話し合う力」を高めるために、話し合いの基本的事項を学習し、互いに話し合いの様子を見合いメモを通して見合う場面を設け、話し方や聞き方を評価し合うことで友達の考えを理解し、自分の考えと重ね合わせて発言することを願った。

11月2日公開研究授業では、「Kさんも自分たちも楽しい交流会にするためには交流会で何をしたらいいだろう」を議題に自分の考えを発表する場面で、意見の根拠やアイデアの良さに気づかせ、相手の意図をとらえながら聞く授業を行った。

カリキュラムの工夫として、4年生の時から続いている総合的学習のテーマと教科書単元「地球環境について考えよう」を関連付けた単元を設定した。そのことで、

調査や取材活動に深まりや時間のゆとりを期待できる上、話し合いが総合的学習で実現できるので、国語学習が起きた場で利用できると考えた。

授業評価 授業振り返りカード なまえ

単 単 元 の 学 習 で	分かったこと・わからなかったこと	
	学習した内容は分かりましたか。	
	授業は楽しく取り組みましたか。	
	プリントやカードは、分かりやすい授業にするために役に立ちましたか。	
	自分の意見や考えを発表しやすかったですか。	
	一生懸命に学習に取り組みましたか。	
	友達同士で話し合ったり教えあったりして学習することができましたか。	

「Kさんとの交流会を開こう」の授業はどうでしたか。次の質問に答えてください。

4 この事例で明らかになったこと

6月の実践から

- ・「伝え合う力」を適切に表現する能力と正確に理解する能力を基盤に互いの立場や考えを尊重しながら言語を通して言葉で伝える力と考える。

- ・総合的な学習の時間など児童の課題追求の展開を工夫する。

国語科の指導により充実した活動に。

- ・児童の実態に立ってつける力を決め出す。国語科の目標 伝え合う力のとらえ
「話すこと・聞くこと」の指導内容 5・6年の学年目標

11月の実践から

- ・「話すこと・聞くこと」の指導内容に立ってつける力が決め出され、発音が明確で話の構成が接続詞や注目する言葉を使って工夫されていた。

- ・聞いて瞬時でメモを取るの難しいので、聞き合い方を全体からグループに。一人ひとりが言語活動できるよう工夫し、相互評価も言語活動の一端となるように「わたしは、あなたの根拠を ととらえたけれど、当てていますか。」などの話し合い活動にしたらどうか。

- ・相手の意見の意図を「よいアイデア」に着眼させるのではなく、「アイデアの裏」「根拠」であるところの「Kさんの状況」や「私たちの願い」に着眼することで、的確にとらえさせることができるということが分かった。

小山小学校のプランが総合学習大きな幹になっている。総合的学習からは、国語の言語の力を手段にして考えをぶつけ、調べ、まとめていける点と、国語科では、紙面上の学習が現実生活の場面で生かせることにもなり、このような試みは有効であった。

5 来年度への課題

- ・総合的学習と国語科の学習が互いに利用しあえるカリキュラムの工夫
- ・単元展開（教材との出会い・追求・まとめ・評価）の工夫
- ・授業評価の継続研究

